

第107回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2018年6月11日(月) 14時～17時

兼題「薔」

- 川井素山 ○片足立ちこつそり試す夏野かな
夏木立切れ間にのぞく風見鶏
老いの身につもる心の薔払ふ
梅雨寒や立ち居に骨の音こぼれ
- 保井寶正 ○薔の香やわが青春の鐵梅録
紫陽花や宿の子庭の椅子一つ
薔薇咲けり逢ひたき人へ届けたる
片腕に上着かかへる薄暑かな
- 佐久間喬 ○古書の街空気重たし梅雨に入る
うかつなり薔に与へしとつておき
ていねいに磨くアイアン走り梅雨
風通す^{あるじ}主人 無き庭牡丹散る
- 丸山酔宵子 ○かびの香や^{カーヴ}酒庫の迷路幾重にも
もう一本鱧の皮ある今宵かな
はなさきでまたかはされる七変化
路地裏のネオンに浮かぶ^{こあじさい}濃紫陽花
- 菊地崇之 ○夫婦合沢庵漬も薔のはな
南風やスカート舞つて目をそらす
夏草やスマホインスタスクランブル
母さんが夜振に耽りせつせと行つただよ
- 吉田啓悟 ○とどまれる雨のひと粒あやめぐさ
つばりと思ふところへ薔の生へ
あぢさゐの真ん中青き星ひとつ
いきなりの薄暑に匂ふき醤油
- 青木英林 ○十葉の^{はびこ}蔓延る庭や老夫婦
久々のデモに参加や梅雨に入る
栗の花沿線に咲く常磐道
薔の香の微かに匂ふ空けし家

- 山本草風 ○長雨や五月の足を縛るごと
青空を泳ぐがごとき昼寝 覚^きめ
父の日や花一輪の感謝かな
儼写真祖父の威厳も払ひけり
- 佐伯兵庫 ○彩つくしインスタ映えのかき氷
老骨に日々のあいさつ籐の椅子
ビルの上ワイシャツめくり田植せり
手を抜いて儼が喜び黒くなり
- 佐久間たか子 ○弦楽の響きのこりて梅雨の月
新茶呑みビバルディ聞く内カフェや
掛軸の垂らすまん中儼にほふ
麦浪や大地の鼓動ざわざわと
- 渡辺鯨波 ○落柿舎の来歴を読む夏帽子
父の日や絵文字でもらう感謝文
ポンペイの遺跡に娼家夏真昼
儼の宿待合室に「キン肉マン」
- 澁谷瑠璃 ○この街も箱庭なのと気付いた日
短夜に別れ急かされ履くヒール
静かなる儼と同居の腐れ縁
流螢や愛の形は無限なり
- 原 晶如 ○節々のみなぎる力今年竹
拭ふべき儼に届かずレンズ拭く
振花を昇りつくして空の青
匙の立つ珈琲ゼリー純喫茶
- 永井正孝 ○靴の儼思ひ出したる宮仕え
あぢさゐや薄青くして空写す
夕風のばらの香背後に忍びよる
毒だみの薬効しめすかこの匂ひ
- 青葉ひかる ○旅立ちの荷造りはずむ初夏の風
青儼もチーズになりて高級品
紫陽花の香り漂う乙女子
鈴懸という名の銘菓麦茶かな

次回「萩句会」

日時 2018年7月9日(月) 14時～17時

場所 下目黒住区センター第二会議室

兼題 『行水』一句

当季雑詠 三句